

# 伊万里市の形成過程と中心市街地の現状の紹介

高阪 雄一<sup>1</sup>

<sup>1</sup>非会員 工学修士 伊万里市政策経営部（〒848-8501 佐賀県伊万里市立花町1355-1,  
E-mail:kousaka-yuuichi@city.imari.lg.jp）

佐賀県北西部に所在する伊万里市は、古伊万里の名で世界中に知られる焼き物の積出港として栄えた地方都市である。伊万里市は、物流の拠点として繁栄したのち、炭鉱や木材港、新たな工業団地の造成・新規企業誘致などによって、主要な産業の更新を繰り返しながら市街地が形成されてきた。この間、市街と離れた臨港地区の整備やバイパスの整備に力点を置いてきた一方で、地域の中心市街地は大水害からの災害復旧や駅前再開発などいくつかの契機があったにもかかわらず、十分な配慮がなされてきたとは言い難い。本論ではその経緯を整理するとともに、今後のまちづくりにおける課題を整理した。

キーワード:伊万里市, 伊万里港, 伊万里湾総合開発, 土地区画整理事業

## 1. 伊万里市の概要

### (1)伊万里市の位置

伊万里市は佐賀県北西部、北松浦半島と西松浦半島に挟まれた伊万里湾の付け根に位置し、福岡、佐賀、長崎などの周辺の主要都市からはいずれも1時間～1時間半ほどの距離に位置している。（図-1）

### (2)伊万里市の人口・経済規模の推移

1954年（昭和29年）に周辺の2町7村が合併し、人口約85,000人、面積約255km<sup>2</sup>の伊万里市として発足した。以降人口は急減に減少し、現在は約57,000人となっており、なおも減少傾向にある。<sup>1)</sup>

### (3)伊万里市の産業・観光

伊万里市の現在の主要な産業は、臨海部では造船業、



図-1 伊万里市位置図。

IT関連企業、木材関連企業及びこれらの関係企業、市内全域で農業、伝統的な地場産業である窯業が主要な産業となっている。

市内の観光は、特産の伊万里焼とその藩窯が置かれた大川内山の他、農村地区では梨、ぶどう、伊万里牛を中心とした観光農業を主要な観光資源としている。

## 2. 伊万里市の展開と経緯

### (1)佐賀藩政下の伊万里の繁栄

伊万里の港町としての発展は、佐賀藩の軍港として始まり、寛永年間（1624～1643年）に有田など近隣で生産される磁器が伊万里川の河口に開けた伊万里津（現在の伊万里市伊万里町付近）から国内各地へ移出されたことから盛んになった。出島を經由しヨーロッパへ大量に輸出されるなど、国内外の市場に向けた積出港としての独占的な地位を占め、その磁器は港の名をとって「伊万里焼」と呼ばれた。<sup>2)</sup>

またこの頃、焼物商人が力をつけるとともに伊万里湾奥の浅瀬の干拓が民間資本を主として積極的に進められ、現在の市街地はほぼこの時期に形成されている。<sup>3)</sup>（図-2、図-3）

### (2)明治～昭和初期の伊万里

明治に入ってから陶磁器の積出港としての隆盛は続き、1890年（明治23年）発行の「佐賀縣獨案内」には、焼物商家の他、船舶代理店などの物流業や貸座敷などの

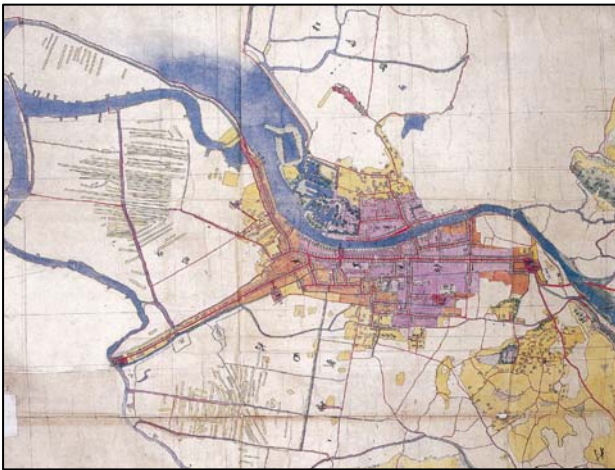


図-2 松浦郡伊万里郷伊万里津他 (1860年)

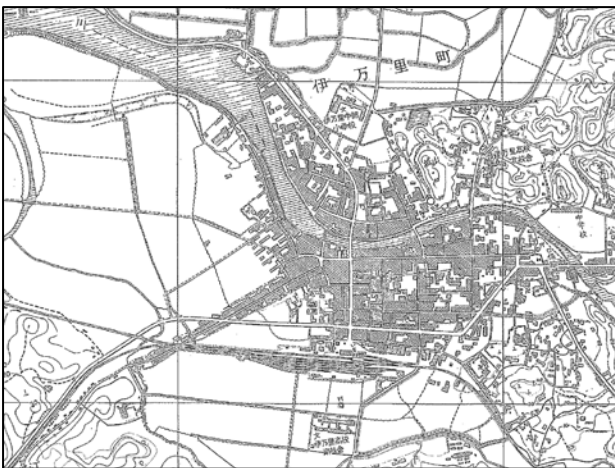


図-3 伊万里町都市計画図 (1951年)

サービス業の賑わいが描写されている<sup>2)</sup>。

ところが、1898年(明治31年)に伊万里—有田間に鉄道が敷設され鉄道網が開通されたことから、海上輸送は次第に陸上輸送に切り替えられた。便船の寄港回数も減少し、不況や関東大震災が追い打ちとなって、陶磁器の物流拠点としての地位は大きく低下した。

また、伊万里から唐津にかけては産炭地であり、多くの炭鉱が明治期に開発されたが、これも鉄道により輸送された。

1927年(昭和2年)発刊の「伊万里案内」には明治期以降の伊万里町の停滞について記載があり、<sup>4)</sup> 物流の拠点性の低下が大きな衰退をもたらしたと推察できる。

### (3) 戦後復興期の伊万里と伊万里湾総合開発

戦後の復興期に入ると、地域の商業中心地であった伊万里町には大規模に開発する余地がなく、伊万里町の周辺町村が合併し、伊万里湾の沿岸部を新たな産業立地のために開発を進めようとする機運が出てきており、周辺の町村議会で度々議論されている。

国の政策では、戦後復興のために石炭の増産と輸送に重きが置かれ、1948年(昭和23年)には運輸省の「伊万里港整備計画」が発表され、伊万里湾の西側中部にあつ

る久原に石炭の積出用の岸壁が整備された。<sup>5)</sup>

次いで、佐賀県においても、総合開発の一環として港湾整備や工場誘致を目的とした「伊万里湾臨海工業地帯造成計画」が1954年(昭和29年)に発表され、臨海部への展開が計画された。この計画は佐賀県の財政難によって頓挫したが、伊万里町には大規模に開発する余地がなく、伊万里湾の沿岸部を新たな産業立地のために開発を進めようとする機運を共有していた伊万里湾沿岸の町村の伊万里湾の総合開発に寄せる期待を大きくし、結果として周辺の2町7村が合併し、現在の伊万里市域を形成した。この合併申請には、「伊万里市建設計画書」が付され、その中で「伊万里湾の総合的開発の進展如何は、地方発展の根本的課題である。(中略)従って今般の大同団結により前述の障害を除去し、強化された政治と経済力をもって自力により開発を推進し、もって臨海工業地帯を目的とした埋め立て地の造成を図り、企業家の対象として価値のある域までに進め、工場誘致の実現を期せんとするものである。」とあり、<sup>6)</sup> 合併の目的は伊万里湾を一体的に活用した臨海工業地帯の形成にあったが、具体的な企業誘致の目途はなかったことが伺える。伊万里市はその後、マスタープランを更新する度に、「伊万里湾総合開発計画」を手直しし続けることになった。

### (4) 昭和中期の伊万里と42年水害の復興

石炭産業の斜陽化の後、伊万里市は沿岸部に合板企業を誘致し、「新建材工業都市」を掲げて久原地区を中心に木材港としての工業化を図り、1967年には伊万里港は開港指定を受けた。

また、佐賀県は1966年(昭和41年)に、石油備蓄基地と関連する産業の誘致や伊万里川・有田川河口を堰き止める河口湖等の構想を「伊万里湾開発構想」として示したが、<sup>7)</sup> 備蓄基地の誘致失敗により頓挫している。

1971年(昭和46年)には造船会社の進出が決まり、黒川町地先の七ツ島周辺を港湾・臨海工業地帯として埋め立てることとなるなど、中心市街からは大きく離れた伊万里湾の両岸に事業所が集中した。(図-4)

また、1967年(昭和42年)に発生した大水害を受け、

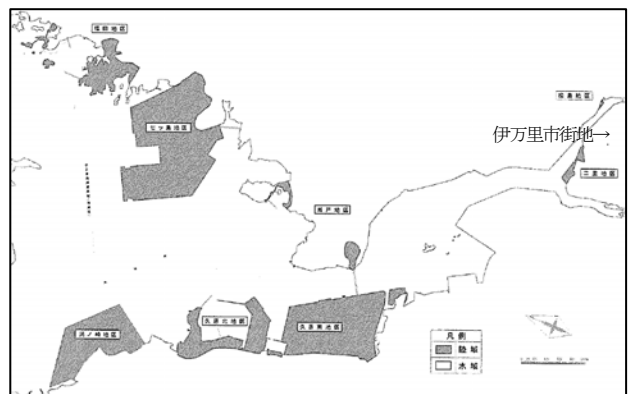


図-4 伊万里港湾計画資料「港湾計画の範囲」(2005)。

大規模な河川改修が行われることとなり、1970年には都市計画を変更している。拡幅により、川の両岸で約150戸を移転し約50戸の地盤嵩上げを実施した。<sup>8)</sup>

### (5) 近年の伊万里港の機能強化と中心市街地の再開発

伊万里湾の開発計画は、木材市場の不況の後も度々プロジェクトが浮上しては消えてきたが、1997年に七ツ島地区コンテナターミナルを開設し、現在では九州の港湾では4番目の取扱量を誇るコンテナ港となっている。

2013年度には大型のコンテナ船が接岸可能な岸壁の供用が開始されるとともに、2014年度には、福岡と結ぶ西九州自動車道が伊万里市域まで開通予定であり、伊万里港の物流拠点機能の強化が期待されている。

また、度々土地所有者の反対を受けて断念してきた駅前土地区画整理事業が1998年度から動きだし、市街を南北に分断していた旧国鉄時代からの伊万里駅舎を解体し、道路を中心市街から駅を抜けて国道202号線まで南北に通した上、JR九州・筑肥線と松浦鉄道・西九州線をつなぐ2階建てのツインビルを建て、駅事務所や観光案内所、ギャラリー等を配置し、両ビルを歩行者連絡橋で結ぶとともに、周辺の3.6haの再開発を行った。

## 3. 伊万里中心市街地の発展と衰退

### (1) 陶磁器の取引・物流の拠点としての隆盛

前述のとおり、陶磁器の取引や物流の拠点としてにぎわった伊万里市街地の原形は、伊万里川が形成する自然堤防に沿って左岸の南側に展開している。川沿い、本町通などに白壁土蔵造りの家屋、蔵が立ち並んでいたことが分かる。右岸河口部には御船屋と呼ばれる佐賀藩の軍港が存在したが、のちに埋め立てられ、魚市場や花街が展開した。(図-5、図-6)

図-2、図-3を比較してわかるとおり、この時期には伊万里の中心市街地の区画は概成していたと考えられる。

### (2) 42年水害からの復興

1967年(昭和42年)の水害の復興に関する記述は以下の通りであり、河川改修の事業に対しては美観維持の記述があり、周遊性の高い商業区域を形成し、居住機能は郊外への展開を推進する方針が示されている。

なお、当時の写真からは、既に白壁土蔵は木造家屋に建て替えが進んでおり、この水害からの復興において、旧来の白壁土蔵の街並みはほとんど失われ、わずかに本町筋等に残るのみである。

・「有田川および伊万里川は、災害復旧事業とあわせて改修事業が施行されているが、これの早期完工を促進する。特に伊万里川については、市街地の中心部を流れて



図-5 河岸に並ぶ白壁土蔵(大正期)



図-6 船屋町遊郭街(明治期)

るので、河畔の情緒と都市美観をそこなわないよう工事施工に当っては十分配慮する。」<sup>9)</sup>

・「旧伊万里町を中心に昔から商業の町として栄えてきたが、一部には住居専用の建物等も混在しているので、今後における産業の進展および広範囲の中核としての役割を考慮し、商業業務および娯楽等以外の建物は、現在開発中の立花台地に誘導し、中心部約16.8haは特化させるものとする。」(図-7)<sup>9)</sup>

・「本市を近代的魅力ある都市に造形するためには、中心的施設としての楽しいショッピング・センターの創造は不可欠である。(中略)ショッピングは単に物を売り買いするという商行為だけではなく、それ自身がひとつの大きな生活のレクリエーション行動として受け取られている。(中略)そのためには、経営規模の拡大、店舗の立体化、共同化を図るとともに業種別に店舗の適正配置を行い、美しいイメージをもった商店街として再生していく。」<sup>10)</sup>

・「本町バイパスは、人の流れと物の流れを分離する

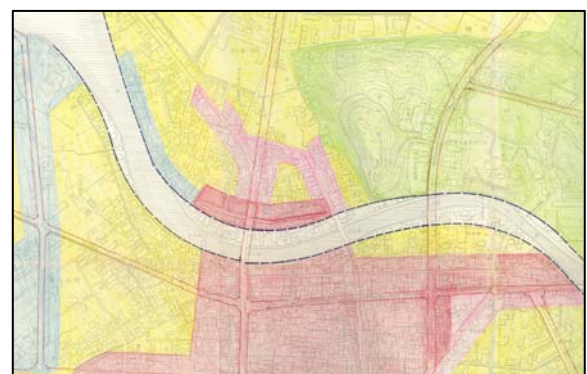


図-7 伊万里市都市計画図土地利用計画図(1972).

ために重要な機能を持ち、本町通りと伊万里川河岸道路とを合わせて3本の軸を形成する。さらに、南北を結ぶ路線を強化し、人々が歩きながらふと、立ちどまって気軽に買物をし、また河岸のヒューマン・ストリートを散歩して帰れるようにする。」<sup>10)</sup>

### (3)伊万里駅前再開発

駅前再開発については、プロジェクトの調整段階に公表された1991年の第3次総合計画では、「多様化する消費者ニーズに応え、伊万里駅周辺の開発にあわせた商店街区の再編や、商店街と連なる親水空間の創出など商業環境の整備を図り、積極的な経営と体質の改善による商業の活性化を図る」となっている。<sup>11)</sup>

ところが1999年の第4次総合計画では、「南北道路については、本市の顔となる空間や景観を有する新たな市街地への進入路として整備を推進し、国道202号から中心市街地への人と車両の誘導を図ります。」「駅周辺については、沿道区画整理型街路事業による新たな街づくりを行い、駅前広場や駐車場を整備するなど都市機能の向上を図ります。」「伊万里川を中心とした公共施設の修景整備を推進するとともに、街を構成する構造物についても景観の面から見直し、訪れた人々が潤いやくつろぎを感じるような古伊万里文化の香るにぎわいのある街づくりを促進します。」となっているとおり、<sup>12)</sup> 道路事業、区画整理事業、都市景観が別々に記載されているうえ、内容も一般的なものとなっており、計画段階での理念は、事業段階に至って各事業毎の業務内で完結したものにとどまったと考えられる。

結果として、道路事業、区画整理事業と商店街再生、河川空間の活用が一体的になされた記録はなく、事実、これらを一連の空間として捉えて整備されたと思われる状況にはない。(図-8)



図-8 伊万里川相生橋付近の現状。

## 4. 伊万里中心市街地の活性化に向けた課題

### (1)観光との連携

伊万里市は、今後の西九州自動車道の開通を見据えて2012年度を観光元年と位置づけ、積極的な施策を展開し

ているが、旧来観光資源と言われてきた大川内山地区の点でのアピールと、特産品の福岡等への売り込みに力点を置いている。

一方、周辺の自治体は広域での観光圏形成に力を入れており、佐世保市、平戸市、西海市による「平戸・佐世保・西海ロングステイ観光圏」と、福岡市、糸島市、唐津市などによる「玄界灘観光圏」に伊万里市は挟まれた形となっている。

伊万里市単独で滞在型観光を打ち出すことは難しいため、これらの観光圏への参加や、他市町との連携により、周遊可能なルートを組むことが可能と考えられる。

その場合、伊万里市は、地域の拠点として市街地の昼夜の魅力を高める必要がある。特に伊万里市街地には歴史のある料亭や伊万里牛の専門店など、手頃に特産品を食べることのできる店舗が多数残っているが、大きな店舗は少なく、地域の客を対象としており、市外からの訪問をアピールしていない。市外からのお客に市街地を周遊してもらう工夫が必要であり、そのような企画を行う組織の強化やまちづくりとの連携が重要と考えられる。

### (2)集約型都市の形成と拠点性の向上

伊万里市は元々多くの町村が合併して構成された市であることから、人口と比して面積が広く、居住地が広範に広がっている。他の地方都市同様に、各バイパスに沿って郊外型店舗が立地する中、中心市街地を活性化するには、その場に雇用や新たな人口流入を呼び込むことが重要である。

現状では、その際の拠点となる街区や空間、施設が明確でないため、ゾーニングの見直しに加え、拠点的に活用される空間を位置づける等により拠点性の向上を図る必要があると考えられる。

### 参考文献

- 1) 伊万里市：統計伊万里，平成23年(2011年)，pp.9, 2012
- 2) 伊万里市市史編纂室：絵図・地図に見る伊万里，pp.54-79, 伊万里市，2007
- 3) 伊万里市市史編纂室：絵図・地図に見る伊万里，pp.150-162, 伊万里市，2007
- 4) 伊万里商工会：伊万里案内，pp.3-4, 1927
- 5) 佐賀県：伊万里港港湾計画資料(その1)，pp.1-2, 1991
- 6) 伊万里市史編纂室：伊万里市史現代編Ⅰ，pp.245-269, 伊万里市，2006
- 7) 佐賀県：伊万里湾開発調査報告書，pp.1, 260-261, 1969
- 8) 伊万里市史編纂室：伊万里市史現代編Ⅱ，pp.445-456, 伊万里市，2006
- 9) 伊万里市：都市計画/土地利用計画書，伊万里市，1974
- 10) 伊万里市：伊万里市総合計画，pp.9, 伊万里市，1974
- 11) 伊万里市：伊万里市総合計画，pp.86-87, 伊万里市，1991
- 12) 伊万里市：第4次伊万里市総合計画，pp.69-70, 伊万里市，1999